

「食」についての調査(芥二報)……意識と行動との関連について
 山陽学園短大 ○相川りま子 露木久恵

目的 芥二報で、父親・母親の意識、さらにそれらの年代別の差について報告したが、芥二報では、意識と行動に一致がみられるかについて知るため調査を行った。

方法 本学学生(56年度119名)について3日間の食事摂取状態調査を実施、小学校6年生(128名)については1日の食事調査表を配布し各自に記入を依頼した。1年生(139名)には質問形式で朝食調査のみ実施した。調査時期は両者とも昭和56年11月(本学学生は55年度も実施した。120名)

結果 朝食は97.9%摂取しており、家族そろって51.6%、1人だけで食べる20.2%であり、夕食は95.7%が家でとっており、家族そろって58.8%で朝食よりやや高く、年代の高い方にその傾向がみられた。主食は朝食にごはん44.4%、パン51.4%、夕食はごはん類85.4%、パン・めん類10%で夕食の主食はごはん類が主流となっている。副食について朝食は卵が中心であり、夕食は魚料理が中心で45.8%、肉料理40.6%、卵・豆腐は少ない。調理方法では、焼く、揚げる、炒める等調理時間をかけているものが少なく、母親の主流年代とも考えられる40年代の料理出現状況を55年度、56年度と比較すると肉料理では焼き肉、とんかつ、ハンバーグ、鶏のから揚げ、魚料理では焼き魚、刺身であり、年度別・年令別に差はみられなかった。緑黄色野菜の摂取は少なく、わずかにほうれんそうが摂取されており、野菜類の主流は淡色野菜がサラダとして摂取されている。加工食品・インスタント食品とみられるものの使用がいくつか目立った。献立の組合せは朝食より夕食に一応注意が払われている。